資料８

令和８年司法試験におけるCBTシステムに関するアンケート結果（要約）

法科大学院協会

１．CBT試験を実施する会場について

（１）休憩スペースやトイレが受験生の数に比してかなり不足していた旨の指摘が多かった。
（２）試験会場によって施設環境（空調設備、防音・騒音対策等）に軽視できない差異があり、そのことで不公平感を感じている受験生が少なくない。
（３）遠方の試験会場を指定されることにより経済的・時間的・精神的負担が増したとの指摘が少なからずあった。

２．PC機材について

（１）キーボードのタイプが事前に情報提供されなかったために、使い慣れないタイプのキーボードの操作に戸惑った旨の指摘が多かった。
（２）キーボードそれ自体の問題（キーの位置、大きさ等）を指摘する回答が一定数あったほか、キーボードのタイプが試験会場によって異なっており、そのことで不公平感を感じている受験生が少なくなかった。

３．CBTシステムについて

（１）各種機能（書き込み機能、コピー機能等）に対する改善要望が多く見られた。
（２）問題文、法文、メモ用紙は紙で配布してもらいたい旨の要望が非常に多く見られた。
（３）論述試験で答案に書ける文字数を増やしてもらいたい旨の要望が多く見られた（特に選択科目）。
（４）CBT システムに関するトラブル対応の基準を統一し、現場で徹底してもらいたい旨の要望が多く見られた。

４．全体の評価

全体として、CBTに関しては肯定的な評価が多かったものの、多岐にわたる改善要望が示された。